



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和7年 8月1日

青空に入道雲が沸き上あがり夏も本番に入り、全国的に猛暑が続いています。こども園からは、水遊びやプール遊びを楽しむ子どもたちの笑い声が響き渡っています。また、泥んこ遊び、色水遊び、染め紙遊び、絵の具遊び等の遊びを経験する中で、色の変化を楽しんだり、色を混ぜたり、試したり、何度も繰り返して遊ぶ姿も見られます。

さて、4歳児さんがプランターに植えたミニトマト、ナス、ピーマンの収穫をし、ピザ作りをしました。自分たちで育てた野菜だったこともあり、野菜が苦手な子も「美味しい」と言って食べました。自分たちで育てた野菜は、また格別だったようです。

8月も引き続きプール遊びや水遊びだけではなく、スライム遊び、ぬりたくり遊び等を計画しています。また、野菜の水やり(ピーマン、ミニトマト、きゅうり)、昆虫の世話(カブト虫、クワガタ虫、カタツムリ)、食事、着替え等、園の生活の中で子どもたちが自分から進んで行動できるように関わっていきたいと思います。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
4	月	身体計測(2歳児めろん組、5歳児)
5	火	身体計測(3歳児、4歳児)
6	水	身体計測(2歳児ぶどう組)
7	木	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
8	金	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
15	金	弁当日
20	水	避難訓練
21	木	健康診断、身体計測(0歳児いちごA組)
27	水	誕生会
29	金	プール納め

保育実習について

8月18日(月)~28日(木)までの間、別府大学短期大学部初等教育科2年生、数野ちひろさんが実習に来園します。



お知らせ・お願い

※ 登園時間につきまして、原則 9 時までをお願いいたします。時間に遅れる場合は、必ず園までルクミー等でご連絡ください。また、登園時にはルクミーの連絡帳の送信もお願いいたします。

連絡帳の提出が確認できない場合、または登園の確認が取れない場合は、9 時以降にご連絡させていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※ 8月のお弁当日は、15日(金)です。子どもさんが楽しみにしているので、忘れないようにお願いします。

※ 8月の保育料の納入期間は、20日(水)・21日(木)・22日(金)の3日間です。

(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)



家で子どもが急に周りの子どもを噛むようになって困っているという相談を受けました。噛みつきについては、園の生活でも悩んでいる先生が時々いますので、この機会に子どもの噛みつきの原因や噛みつきへの対処の仕方について考えてみたいと思います。

まず始めに、子どもの噛みつきが起きる原因について考えてみます。

一番目の原因は、子どもの身体的な発達との関係です。1歳から2歳になると手よりも口の方が早く発達してきます。そのため、自分の意思を伝えたい時に、とっさに噛みついてしまうのです。

二番目の原因は、歯茎がかゆくなることです。歯が生えてくると歯茎がムズムズと痒くなり、何かものを噛んでかゆさを紛らわせようとするのです。

三番目の原因は、まだ自分の思いを言葉ではうまく言えませんが、言葉を使わずに自分の意思を伝えようと噛みついてしまうのです。

四番目の原因は、他人との関わり方が、まだよく分からないということです。子どもは挨拶や楽しい気持ちの表現として噛みついてしまうのです。また、興奮して戯れるような気持ちで噛みつくようなこともあります。

五番目の原因は、甘えたい気持ちの表現です。お父さんお母さんなど身近な親しい人に噛みついてしまう場合は、このことが原因であると考えられます。特に、お父さんお母さんが仕事や家事で忙しいとかまってもらいたくて噛むようなこともあります。

六番目の原因は、気持ちが不安定になって噛みついてしまうことがあります。噛みつきが見られるようになった時は、体調や家庭環境、園の環境にも目を向けると原因に気づくことがあります。

七番目の原因は、噛みつきを相手への攻撃手段として使ってしまうことです。子ども同士の喧嘩の中では、相手を叩いたり蹴ったりするとともに噛みつきことも攻撃手段として出てきてしまうのです。成長の中で自然にでてくる子どもの噛みつきは、主に3歳までですが、攻撃による噛みつきは3歳以降でも見られることがあります。

次に子どもの噛みつきへの予防策を考えていきます。

一番目は、噛んでも大丈夫な玩具を与えることで、この方法は歯茎のかゆさが原因の噛みつきにはとても効果があります。歯固めなど噛んでも安全な玩具を与えると噛むことがとても良い遊びになります。

二番目は、子どもからできるだけ目を離さないようにすることです。一時も目を離さず見ていることは難しいかも知れませんが、できるだけ子どもたちから目を離さないようにします。そうすると子どもの噛みつきを未然に防ぐことができるようになります。子どもが噛みつきそうな時には話しかけるなどして気をそらしてあげます。また日頃から子どもたちの様子を観察することで、どのような時に噛みつきが起きるのかということが子どもの表情や行動から推測できるようになり、なぜ噛みついてしまうのかという原因も見えてきます。

三番目は、子どもたちの密集を避けることです。子どもたちの遊ぶ空間が十分でないと、子ども同士の体がぶつかったり合ったり玩具や遊具を奪い合ったりして満足のいく遊びができず、不安定になりやすくなります。子どもたちの人数に合わせた場所と空間を用意してあげると子どもたちが思いっきり遊べるようになります。

噛みつきは起こらなくなります。

四番目は、子どもたちが不安定にならないように、コミュニケーションや子どもとの触れ合いを増やすことです。特に、弟や妹が生まれたときは、子どもがお母さんを取られたような寂しさを感じやすくなりますので、意識的に子どもと触れ合う時間を取る必要があります。コミュニケーションは量より質の方が大切ですので忙しい日々の生活の中でも子どもにしっかり愛情を伝えるようにします。

最後に子どもの噛みつきへの対処について考えていきます。まず初めにすべきことは、怪我の手当です。噛んだ場所を洗い流し、患部を冷やすことで、炎症反応を抑えます。冷やす時は、氷嚢や氷と水を入れたビニール袋、保冷剤などを必ずタオルにくるみ使います。子どもはじっとしているのが苦手ですが、最低でも5分間は冷やすようにします。できれば皮膚の感覚がなくなるくらいまで冷やすのが良いようです。出血が多かったり傷が深かったりする場合は、必ず医療機関を受診するようにしてください。

二番目には、噛んでしまった子に対してはすぐに叱るのではなく、一度その子の気持ちに寄り添ってあげることが大切です。子どもの気持ちが落ち着くのを待ってから、なぜ噛んでしまったのか聞いたり、噛まれた子は痛いということを伝えたりします。ここではそのタイミングが大切で子どもの対応を後回しにしてはいけません。後からでは、子どもはいわれていることが何のことだか分からなくなってしまうからです。

三番目には、噛んでしまった子だけでなく、噛まれた子への声掛けも忘れないようにします。まずは噛んでしまった子と同じように、「急に噛まれて痛い」という気持ちに寄り添いながら「どこを噛まれてしまったのか」ということを確認する必要があります。この時、噛んでしまった子どものお詫びの気持ちも優しく代弁してあげることが大切です。

今回は、子どもの噛みつきの原因や予防法、さらに対処法について考えてきました。ここでは、子どもの噛みつきの原因を考えることによってどのようにしたら改善していくのか見えてきました。それとともに、子どもの噛みつきを防ぐために子どもたち一人ひとりに合わせた対策も考えることができました。ここでの提案が子どもの噛みつきで困っている皆さん方の参考になることを願っています。



<エッセイに一言>

今回のテーマである『噛みつき』では、発達段階の一部として自然と起こることが多いのですが、私たち大人の関わり方で子どもに与える影響が変わってくるのではないかと思います。

エッセイに書かれているように、様々な要因によって起こる噛みつきに対し、子どもの気持ちを受け止め適切に対応することの大切さを改めて学びました。

子どもの噛みつきについて悩みや相談があれば担任へ声を掛けていただき、園や家庭での様子等を伝え合う中で、一緒に取り組んでいきたいと思います。

園長 高津 宏児